

2024年2月13日

SAAJ NEWS RELEASE

「証券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項 (KAM) の好事例集 2023」を公表

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：小池 広靖 野村アセットマネジメント CEO 兼代表取締役社長）は、日本公認会計士協会の協力を得て、2024年2月13日に「証券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項（KAM）の好事例集 2023」（以下、「KAM の好事例集 2023」）を公表しました。好事例集の公表は、2022年2月、2023年2月に次ぐ3回目で、今回が最後となります。

KAM (Key Audit Matters) は、監査人が財務諸表の監査において特に重要であると判断した事項です。我が国では、2021年3月期決算より KAM の記載が全上場会社等に強制適用されています。

【「KAM の好事例集 2023」のポイント】

- KAM の好事例は、以下のプロセスを経て選定した。
 - ① 日本公認会計士協会による機械的な一次選定
 - ② 企業会計研究会 KAM ワーキンググループによる二次選定<優良 KAM>【23社】
 - ③ ディスクロージャー研究会の現役アナリストによるコメント
 - ④ <特別枠> (※) の選定 【2社】

※ 全般的な評価は高くなくても、ある点については証券アナリストに役立つ、又は監査人・被監査会社へのメッセージになる KAM の記載のある会社
- 好事例集の公表を終えるに当たり、KAM に関して、監査人、監査役等及び証券アナリストに、次のことを期待したい。そして、これらを通じて、KAM の制度が有意義に定着することを期待したい。
 - 監査人には、監査役等との連携・コミュニケーションをより深めることで、証券アナリストが会社を理解する際に重要な手掛かりになる良い KAM を継続的に提供することを期待したい。
 - 監査役等には、良い KAM が提供できるよう監査人と連携しつつ、良い開示が行われるよう経営者に働きかけることを期待したい。
 - 証券アナリストには、KAM を企業分析、企業との対話等に利用することを期待したい。

[【添付資料】 証券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項 \(KAM\) の好事例集2023](#)

本件に関するお問い合わせは下記まで

SAAJ 公益社団法人
日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1200

担当：企業会計第2部長 土谷 敬